

第3回協議会だより 《南方部》



令和7年1月17日（金）14:30～16:40 郡山市役所 正庁

【実践発表】 エムポリウムこども園

遊びや生活を通して育まれる資質・能力について～学びの連続性を見通したアプローチカリキュラムの実践～
就学に向けた幼保と小の情報共有について



エムポリウムこども園は令和5年に幼保連携型認定こども園として、幼稚園と保育園の機能を併せ持った教育・保育を行っています。本日は、教育内容とアプローチカリキュラムの実践、小学校との情報共有について発表していただきました。本園では、少人数制のオープンスペース型の教室で子どもを中心に考える保育を実践しており、特色として運動や知育、童画等の5つの遊びを専任講師から教わっています。これらは結果を重視するのではなく過程を大切に行っており、多様な学びに繋がっています。アプローチカリキュラムの実践では、子どもの持つイメージやアイデアを尊重した表現活動が紹介されました。新聞紙等の材料で工夫しながら衣装を作り、出来上がるとダンスや劇を始めたという事例です。この活動で「10の姿」の「思考力の芽生え」や「言葉による伝え合い」が育まれました。小学校との交流では、橘小学校を訪問し授業参観や校内見学しました。園に戻り、今後はどのような連携や交流をしたいか話し合ったそうです。「こども園の行事に1年生を招待しては？」など沢山の意見が出されました。これからの連携が楽しみです！

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ エムポリウムこども園について

- ・オープンスペースの園舎が素敵だと思いました。異年齢児交流も自然と出来ており、自然と優しさや思いやりの心が育まれることと思いました。
- ・実践事例の表現遊びは、子どもの気づきを先生が受け止めて環境を設定したので、意欲を持って主体的に活動を展開していったと思います。このような活動は小学校への学びの連続性に繋がると感じました。

☆ 「幼保小の架け橋プログラム」に期待することについて

- ・「気になる子の支援」「保護者対応」「小1 プログラムの実態と具体的対応」「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの活用状況」の視点で話し合いました。保護者との距離感が幼保と小で差があることも分かり、架け橋プログラムを進めるうえでも大切なポイントであると気付きました。

《参加者からのアンケートから》

- ・幼保と小の交流や連携の仕方には違いがあり様々であるため、幼保小架け橋プログラムで統一できるように、進められたら良いと感じました。（保育所：参加者）
- ・幼保小の架け橋プログラムをこれからもしっかりと考え、一つ一つ計画的に実現に向けていきたいです。本日はありがとうございました。（小学校：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。